

## 資料 4

## 蒲生干潟 対象区域等における「保全と利活用」に関する取組み回答一覧

No.	分類	団体	内容概要
1	保全	東北大学工学部 環境生態工学研究室	蒲生干潟ラグーン水域調査
2	保全	北海道大学大学院農学研究院	海浜部分の植生調査、地形測量、徘徊性節足動物調査
3	保全	(株) 復建技術コンサルタント	緑地のドローン撮影、植生調査、土壌調査
4	保全	宮城県野生動植物調査会 海岸動物分科会	宮城県レッドデータブックに関する底生動物調査
5	保全	東北学院大学水工学研究室	蒲生干潟から七北田川河口部のドローン撮影及び現地状況のモニタリング調査
6	保全	蒲生を守る会	月例蒲生鳥類生息調査及び干潟、河口、汽水池の塩分濃度調査
7	保全	環境省東北地方環境事務所	仙台海浜鳥獣保護区の巡視、東北地方太平洋沿岸地域重点地区調査及び鳥獣保護管理法に基づく保全措置
8	保全	蒲生のまちづくりを考える会	干潟清掃（ゴミ拾い）
9	保全	蒲生のまちづくりを考え会、 蒲生を守る会	スナガニの生息調査
10	保全	日本野鳥の会宮城県支部	プラスチックごみ回収及び鳥類観察
11	保全	国立環境研究所	蒲生干潟の底生生物定量調査、底質全域調査、干潟・砂州の地形、植生トレース調査、干潟・河口部の底生動物定性調査
12	保全	宮城県環境生活部自然保護課	蒲生干潟の配慮事項の普及啓発のための看板設置
13	保全	宮城県環境生活部自然保護課	仙台海浜を県自然環境保全地域として指定、保全
14	利活用	環境省 東北地方環境事務所	みちのく潮風トレイルの整備・維持管理
15	利活用	蒲生を守る会	蒲生自然観察会
16	利活用	日本野鳥の会宮城県支部	蒲生干潟にて鳥類観察会
17	利活用	日本野鳥の会宮城県支部	蒲生干潟全域にて全鳥類の生息状況調査
18	利活用	日本野鳥の会宮城県支部	蒲生干潟全域にてシギ・チドリ類の生息状況調査
19	利活用	仙台市宮城野区 中央市民センター	蒲生干潟及び七北田川での生き物観察会
20	利活用	(公財) 仙台ひと・まち交流財団	蒲生干潟での生き物観察会
21	利活用	(公財) 仙台ひと・まち交流財団	仙台蒲生の日和山 山開き登山
22	その他	仙台市教育局科学館	震災以降の蒲生干潟周辺の調査 (地形調査、塩分濃度、植層、干潟内生物)

蒲生干潟 対象区域等における「保全と利活用」に関する取組み回答一覧

No.	分類	団体名	取組内容	場所	実施場所 番号
1	保全	東北大学工学部 環境生態工学 研究室	■蒲生干潟ラグーンの水域を対象に、水位や水質の観測を実施。2023年春ごろまで、日和山前付近の水域で、水位・塩分・クロロフィルの連続観測。今後は、目的に応じて機材配置や採水などを行って短期のモニタリングを実施、ラグーンへ、潮汐にともなって出入りする水量や物質の量を推定することが当面の目標。	蒲生干潟ラグーンの水域	②
2	保全	北海道大学大学院 農学研究院	■海浜部分の植生調査、地形測量、徘徊性節足動物調査 1. 実施時期 : 2020年～2022年の毎年9月 2. 参加者 : 北海道大学の学生3名 3. 成果・課題 : 植生、地形、徘徊性節足動物の4年間の変化を把握し、良好な海浜植物群落が保全されていることがわかった。一方、地形は最も標高が高い場所でも2.7m程度であったため、海水が広く内陸側まで届くことがわかった。徘徊性節足動物については、海浜性節足動物が広く調査区内に分布していることがわかり、汀線から陸側に離れるに従って海由来の栄養を利用する割合が低下していくことが明らかとなった。蒲生では海水による海浜の攪乱が海浜生態系の維持に重要であると考えられた。	蒲生干潟海浜	①
3	保全	(株) 復建技術 コンサルタント	■緑地のドローン撮影、植生調査、土壌調査 1. 実施時期 : 2019年～2030年の毎年10月頃(実施しない年もあり) 2. 参加者 : 東北学院大学の教授1名、コンサル3名程度 3. 成果・課題 : 本地域では津波対策のための河川堤防の復旧作業と併せて各種事業が実施されてきた。それにより、従来のヨシを主体とした在来植生の消失や堤防内外の生物相の連続性の断絶が危惧されたことから、環境配慮の一環として、堤防沿いに緑地帯が設けられ、ヨシを主体とした表土移植が実施された。移植約1年後、ヨシの生育範囲はわずかで在来植生の初期段階とみられた。また、ヨシの生育状況と土壌水分量や土壌塩分濃度との関係には、相関は認められなかった。ヨシを主体とした在来植生の再生にはある程度の期間を要するものとみられ、その後もモニタリングを継続したところ、徐々にヨシの生育範囲が拡大する傾向がみられた。	蒲生北部地区 4号緑地	⑨
4	保全	宮城県野生動植物 調査会 海岸動物分科会	■宮城県自然保護課では希少野生動植物の保全を目的としてレッドリストを作成し公表している。2021年には「宮城県レッドリスト2021」を公表した。また「宮城県レッドデータブック」改訂版を2026年3月に公表するために、希少野生動植物の調査を継続し、毎年結果を取りまとめている。海岸動物分科会は沿岸域(干潟、ヨシ原、砂浜、岩礁など)に生息する底生動物の生息状況を把握するための一環として、蒲生干潟や七北田川河口において底生動物の調査を実施している。 1. 実施時期: 春から秋にかけての大潮時に数回 2. 参加者 : 宮城県野生動植物調査会 海岸動物分科会構成員等 3. 人数 : 適宜 4. その他(成果、課題など) : 調査結果は、蒲生干潟の希少種ならびに生物多様性の保全に際して利活用される。また、宮城県レッドリストの作成、更新において、基礎的な情報となる。	蒲生干潟、 七北田川河口	①⑤
5	保全	東北学院大学水工 学研究室	■蒲生干潟から七北田川河口部にかけてドローンでの撮影および現地状況の視察によるモニタリングを実施 1. 実施時期: 1～2か月に1回程度(天候・台風等の状況によって随時変更) 2. 参加者 : 東北学院大学水工学研究室のメンバー数名(三戸部+学生数名) 3. 人数 : 4名程度 4. その他(成果、課題など) : 撮影した画像をもとに蒲生干潟周辺の3Dモデルを作成。ドローン撮影画像および地上調査・写真を用いて植生分布の作成も試みている。	蒲生干潟、七北 田川	①⑤
6	保全	蒲生を守る会	■月例蒲生鳥類生息調査(目視で動植物、地形等も含む) 1. 実施時期と方法 : 月一回のモニタリング調査(震災前より継続実施) 干潟周辺の決まったコースを徒歩で一周し(定点とラインを併用)、認められた種名と個体数、行動を記録し、地図上にマッピングする。 ■干潟、河口、汽水池の塩分濃度を測定 1. 参加者: 蒲生を守る会有志 2. 人数 : 6名～8名 3. その他: 1971年より現在まで継続して行ってきた(1971～1974はシギチドリのみ、1975以降は全鳥種を対象)	蒲生干潟、周辺 海岸、海域、河 口	①⑤⑥

蒲生干潟 対象区域等における「保全と利活用」に関する取組み回答一覧

No.	分類	団体名	取組内容	場所	実施場所番号
7	保全	環境省 東北地方環境事務所	<p>■仙台海浜鳥獣保護区内における鳥獣保護区管理員の巡視</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施時期：通年 月2日程度</li> <li>2. 体制：鳥獣保護区管理員人数 2名 (R5.9.1時点)</li> <li>3. 巡視内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥獣の生息状況調査 ・利用者状況の確認及び指導 ・標識等の状況確認</li> <li>・密猟防止のための監視 ・鳥獣保護区内に異常がないかの確認</li> </ul> </li> </ol> <p>■仙台海浜鳥獣保護区内における仙台自然保護官事務所職員の巡視</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施時期：通年 月1日程度 (適宜)</li> <li>2. 体制：自然保護官 1名、自然保護区補佐 (アクティブレンジャー) 1名</li> <li>3. 巡視内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・標識等の維持管理 ・鳥獣の生息状況の確認 ・利用者状況の確認及び指導</li> <li>・密猟防止のための監視 ・外来種の駆除 ・高病原性鳥インフルエンザ発生時の対応</li> </ul> </li> </ol> <p>■東北地方太平洋沿岸地域重点地区調査の実施</p> <p>いまだかつてない自然環境を大きく攪乱した東日本大震災に伴う津波の影響からの自然環境の回復及びその後の変化をとらえることを目的に、地震・津波による自然環境への影響や、変化し続ける自然環境のモニタリングを実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施状況 平成24年度、25年度、26年度、27年度、令和元年度、令和5年度 ※次年度以降の予定は未定</li> <li>2. 実施主体 環境省生物多様性センター</li> <li>3. 調査内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベルトトランセクト調査 ・植物相調査 ・動物相調査 ・有識者ヒアリング 等</li> </ul> </li> </ol> <p>■鳥獣保護管理法に基づく、保全措置</p>	蒲生干潟及びその周囲 (国指定仙台海浜鳥獣保護区内)	①⑤⑥
8	保全	蒲生のまちづくりを考える会	<p>■干潟清掃 (ゴミ拾い)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施時期と時間：2ヶ月に1回 (奇数月)、1時間程度</li> <li>2. 参加者：会員など</li> <li>3. 人数：6~8名程度</li> <li>4. その他：</li> </ol> <p>直近では9月2日に実施。堤防周辺にタバコの吸い殻、花火などが多く、干潟やヨシ原に家庭ゴミやペットボトルなどが多かった。拾ったゴミは仙台市指定のゴミ袋に入れ、後日仙台市に回収していただいている。</p>	蒲生干潟、日和山駐車場、河川堤防、日和山周辺、七北田川河口	①③⑤⑧
9	保全	蒲生のまちづくりを考える会、蒲生を守る会	<p>■スナガニの生息調査</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施時期と場所：8月~9月上旬干潟前面の海岸 (10m×10mの区画を数カ所設置)</li> <li>2. 参加者：蒲生のまちづくりを考える会有志、蒲生を守る会有志</li> <li>3. 人数：数名</li> <li>4. その他：</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年より毎年1回、実施している。</li> <li>・里浜ネットワークの調査と協同して実施</li> <li>・絶滅危惧種スナガニが生息する海岸の健康度の指標として保全に活用</li> </ul>	蒲生干潟前面の海岸	⑥
10	保全	日本野鳥の会宮城県支部	<p>■蒲生干潟にて、海鳥の生息に影響があるプラスチックごみを回収しながら鳥類観察を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施時期：秋に年1回実施</li> <li>2. 参加者：会員および広報による一般の参加</li> <li>3. 人数：28人 (2022年10月29日実施実績)</li> <li>4. その他 (成果、課題など)：ゴミ袋は32袋になった。後日仙台市で回収。</li> </ol>	蒲生干潟、北側	⑥
11	保全	国立環境研究所	<p>■蒲生干潟周辺での調査研究</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施時期：毎年5~8月 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 蒲生干潟での底生動物定量調査・底質全域調査 (年1回6月)</li> <li>(2) 蒲生干潟・砂州上での地形、植生トレース調査 (年1回6-7月)</li> <li>(3) 蒲生干潟および七北田川河口部での底生動物定性調査 (随時)</li> </ol> </li> <li>2. 参加者・人数： <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 鈴木孝男氏、菊地永祐氏、研究者やボランティア数名。</li> <li>(2) 金谷</li> <li>(3) 鈴木孝男氏、金谷</li> </ol> </li> </ol>	蒲生干潟内および砂州上、七北田川	①④⑤

蒲生干潟 対象区域等における「保全と利活用」に関する取組み回答一覧

No.	分類	団体名	取組内容	場所	実施場所番号
12	保全	宮城県環境生活部 自然保護課	■蒲生干潟周辺に水鳥や干潟の生き物への配慮事項を普及啓発するための看板を設置。 1. 実施時期：通年 2. 参加者：宮城県、関係行政、機関、団体と連名で設置 3. その他：植物が育つと見えづらい箇所もあるため、定期的な確認が必要。	蒲生干潟周辺	①⑤
13	保全	宮城県環境生活部 自然保護課	■蒲生干潟を含む「仙台湾海浜」を県自然環境保全地域として指定し、保全している。 1. 実施時期：通年 2. 実施者：宮城県 3. その他：県自然環境保全地域内での行為に対して許認可等を実施。	蒲生干潟周辺	①
14	利活用	環境省 東北地方 環境事務所	■みちのく潮風トレイルの整備・維持管理 「みちのく潮風トレイル」は、青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸をつなぐロングトレイルであり、蒲生干潟周辺堤防は、塩竈市（市街地）～多賀城市～仙台市ルートの一部となっている。	蒲生干潟周辺堤防	⑦
15	利活用	蒲生を守る会	■蒲生自然観察会 1. 実施時期：震災前は年4回（春夏秋冬）、震災後は年1回程度 2. 参加者：一般市民 3. 人数：30名～50名程度 4. その他： ・2023年6月18日で通算187回目の実施となった。 ・2014年より地元企業のソニーTECと協同実施（ソニーの社員家族も参加）	蒲生干潟および 周辺の海岸	①
16	利活用	日本野鳥の会宮城 県支部	■蒲生干潟にて鳥類の観察会を実施 1. 実施時期：秋のシギチドリ類の渡来時期に年1回実施 2. 参加者：会員および広報による一般の参加 3. 人数：36人（2023年9月16日実施実績） 4. その他（成果、課題など）：確認種は22種	蒲生干潟、北側	①⑥
17	利活用	日本野鳥の会宮城 県支部	■蒲生干潟（七北田川を含む）全域にて、全鳥類の生息状況の調査を行っている。 1. 実施時期：月1～2回、年18回実施 2. 参加者：支部調査員 3. 人数：3人～8人 4. その他（成果、課題など）： 2022年度は16回実施で85種を確認した。シギ・チドリ類は17種が確認された。	蒲生干潟、全域 （七北田川を含 む）	①④⑤
18	利活用	日本野鳥の会宮城 県支部	■県内のシギ・チドリ類渡来地11ヶ所で春と秋に実施している。蒲生海岸は蒲生干潟（七北田川を含む）全域にて、シギ・チドリ類の生息状況の調査を行っている。 1. 実施時期：春と秋に渡りの時期（4月と9月）にそれぞれ実施。 2. 参加者：支部調査員 3. 人数：3人～8人 4. その他（成果、課題など）：シギ・チドリ類は17種が確認された。	蒲生干潟、全域 （七北田川を含 む）	①④⑤
19	利活用	仙台市宮城野区中 央市民センター	■蒲生干潟及び七北田川での生き物観察会を実施 1. 主催者： 仙台市宮城野区中央市民センター、仙台市嘱託社会教育主事研究協議会宮城野部会（共催事業） 2. 実施時期：10月中旬 3. 参加者： 宮城野区内の小学校に在籍する3～6年生区内小学校から募集し、抽選により決定する。 4. 人数：参加者30名、スタッフ20名 5. その他：令和5年度から始める事業である。	蒲生干潟、七北 田川	①④⑤

蒲生干潟 対象区域等における「保全と利活用」に関する取組み回答一覧

No.	分類	団体名	取組内容	場所	実施場所 番号
20	利活用	(公財) 仙台ひと・まち交流財団	<p>■蒲生干潟での生き物観察会を実施</p> <p>1. 実施者 : (公財) 仙台ひと・まち交流財団高砂市民センター (仙台市決定による指定管理者。事業内容決定や実施は財団による)</p> <p>2. 実施時期 : 6月 (学校事情によって9月に実施することもある)</p> <p>3. 参加者 : 仙台市立鶴巻小学校 4年生児童、引率教員</p> <p>4. 人数 : 参加者児童90名</p> <p>5. その他 : 仙台市立鶴巻小学校の校外学習として実施されている。</p>	蒲生干潟	①
21	(自然再生以外の) 利活用	(公財) 仙台ひと・まち交流財団	<p>■仙台蒲生の日和山 山開き登山</p> <p>1. 実施者 : 仙台蒲生日和山山開き登山プロジェクト、中野ふるさとYAMA学校、なかの伝承の丘保存会、(公財) 仙台ひと・まち交流財団高砂市民センター (仙台市決定による指定管理者。事業内容決定や実施は財団による) (共催事業)</p> <p>2. 実施時期 : 7月第一日曜日</p> <p>3. 参加者 : どなたでも</p> <p>4. 人数 : 180名 (令和5年)</p> <p>5. その他 : 震災で失われた地域の文化と被災体験を広く伝えるとともに、地域住民の交流の活発化を目指し、企画会議を重ねて開催している。</p>	日和山 (蒲生干潟)	⑩
22	その他	仙台市教育局科学館	<p>■震災以降の蒲生干潟周辺の調査 (地形調査、塩分濃度、植相、干潟内生物)</p> <p>1. 実施時期 : 毎月1回調査を実施。</p> <p>2. 参加者 : 科学館職員3名、元科学館職員1名 計4名</p> <p>3. その他 : 調査結果を科学館のホームページに公開</p>	蒲生干潟周辺	①

蒲生干潟対象区域等における「保全と利活用」に関する取組み実施場所

